

はしがき

本書は、平成 26 年―平成 28 年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）挑戦的萌芽研究 課題番号 26590199「帝国日本の「外地」中等教員ネットワーク」による研究成果である。

公立「近代学校」の特徴の一つとして、教師は教育職員として資格を有し、かつ定期的に勤務校を異動することにある。では、帝国日本の版図拡大と教員ネットワーク形成との関係はいかなるものであったのか。

そこで本研究は、広島高等師範学校（以下広島高師と略記する）の『広島高等師範学校一覧』（以下単に『学校一覧』とする）を用いて卒業生の動向を描くことを柱とする。さらに広島高師校長だった幣原坦の著作を通して、1940 年代に入ってから「南方」問題を思想面から考察する。ただし、『学校一覧』では卒業生同士や広島高師との間で具体的にどのようなやりとりがあって就職・転出したのかまでは分らない。あくまで状況証拠として、傾向を分析するに留まることをあらかじめ付言する。

ではなぜ広島高師を研究対象とするのか。それは、教員ネットワークの拡大を意図的に行っていたと考えるためである。東京高師や帝国大学の卒業生が全国に「学閥」を形成していたが、広島高師は後発校であったため新設校に広島高師卒業生の校長が現れると、そこを足掛かりとして尚志会員教員が集まり学閥が形成されていったと指摘する研究がある⁽¹⁾。この研究は「内地」しか対象にしてないという限界があるが、広島高師が新設校を中心に学閥を形成していったという指摘は重要である。というのも植民地、領有地が増える毎に、「内地人」用の新設校が建てられ、新規に教員を採用する需要が生じ、そこで新規教員市場の開拓が必要となるからである。つまり、帝国日本の版図拡大と「内地」の教員養成校による新規教員市場の開拓との関係を考察する上で、広島高師を対象とすることが求められるのである。1942 年 9 月段階で「外地」の中等教員は「内地」の教員養成課程を経ることを建前とし、朝鮮・台湾・満洲などにおける中等教員の自給自足を否定した⁽²⁾。こうした「外地」に赴任する中等教員の養成課程の一つとして、広島高師が位置付けられる。

広島高師の教員人材輩出を分析する上で注目すべき組織が、卒業生の同窓組織である尚

⁽¹⁾ 片岡徳雄・山崎博敏編『広島高師文理大の社会的軌跡』財団法人広島地域社会研究センター、1990 年、p.204。

⁽²⁾ 杉森知也「植民地朝鮮・台湾および満洲における中等教員養成拡充の基礎的要件に関する一考察」日本大学教育学会『教育學雑誌』（50 号、2014 年、p.27）。ただし、「外地」での中等教員養成が全くなかったわけではない。杉森によると朝鮮では 1936 年に水原高等農林学校に農業教員養成所が附設されたのを始め、他に 3 校が設置された。台湾では 1942 年に台北高等学校縁臨時教員養成所が附置され、関東州でも同年に旅順工科大学に旅順臨時教員養成所が附置された。このように 1940 年代に入ってからようやく「外地」での中等教員養成が行われるようになったが、資料上の制約と「外地」中等教員を取り巻く状況の変化とを踏まえ、「外地」中等教員を取り巻く状況の変化とを踏まえ、本研究での主な対象を 1938 年までとする。

志会である。そこで本研究では広島高師卒業生を尚志会員と呼ぶこととした。尚志会は 1908 年に結成された尚志同窓会を前身とし、その名称は初代校長の北条時敬が命名した⁽³⁾。1931 年に広島文理科大学卒業生も同窓会員とすることとし、名称も「尚志会」と改めた。そのため広島文理科大学卒業生を含めて検討する。

尚志会は母校と密接な関係を持ち、高等師範学校廃止問題などが起こると卒業生を動員して運動を展開させる組織となった。また尚志会員同士の交流を促すために『尚志同窓会雑誌』が 1908 年 6 月に創刊された⁽⁴⁾。その目的は「同窓生即ち会員間の消息を通じて旧誼を温め、母校との連絡を謀りて師弟の情誼を厚ふし、母校を中心として同窓生の活動に統一あり関連あらしむる」こととした⁽⁵⁾。こうしたことから、尚志会は卒業生をネットワークとして結びつける存在だったと考えられる。

さて、尚志会員による教員市場開拓を検討する上で参考となるのが、京城帝国大学医学部によるジッツ（Sitz、特定の医局が医局員を長期・安定的に派遣する関連病院のこと）獲得の動きを分析した通堂あゆみの研究である。「後発で、かつ朝鮮半島という立地条件に規定された京城帝大の場合、こうしたジッツ獲得競争においてその進出先は朝鮮半島内においては比較的新設の医専や道立医院であり、内地ではなく大陸すなわち満洲方面への影響力を伸ばしていった」という⁽⁶⁾。後発の京城帝大からジッツに医局員を配給する構図と、同じく後発の広島高師が「外地」の新設校に卒業生を輩出する構図は重なるように思われる。以上の問題関心から、本書では主に広島高等師範学校出身者による「外地」中等教員ネットワークの形成過程を分析する。

研究組織

研究代表者	山本一生	上田女子短期大学専任講師
研究分担者	山下達也	明治大学文学部准教授
研究協力者	角能	東京大学人文社会系研究科特任研究員
研究協力者	杉森知也	日本大学文理学部教授
研究協力者	松岡昌和	一橋大学大学院言語社会研究科特別研究員
研究協力者	槻木瑞生	同朋大学名誉教授

研究活動

本科研では以下のように研究活動を行った。

⁽³⁾ 広島高等師範学校創立八十周年記念事業会『追懷』1982 年、pp.38-39。

⁽⁴⁾ 広島文理科大学『創立四十年史』（1942 年：日本教育史文献集成、第一書房、1982 年）p.130。

⁽⁵⁾ 『尚志同窓会誌』第 2 号、1908 年、p.66。

⁽⁶⁾ 通堂あゆみ「京城帝国大学医学部における「医局講座制」の展開」酒井哲哉・松田利彦『帝国日本と植民地大学』ゆまに書房、2014 年、p.172。

2014 年 4 月 12 日に明治大学駿河台キャンパスに於いて初回打ち合わせを行い、以下の日程で打ち合わせを行った。

5 月 8 日（明治大学） 6 月 5 日（東京大学教育学部） 7 月 24 日（東京大学教育学部） 8 月 8 日（東京大学教育学部） 8 月 18 日（東京大学教育学部） 9 月 1 日（明治大学） 9 月 23 日（東京大学教育学部） 10 月 23 日（日本大学文理学部） 11 月 10 日（東京大学教育学部） 11 月 20 日（東京大学教育学部） 12 月 12 日（東京大学教育学部） 2015 年 1 月 23 日（東京大学教育学部） 2 月 26 日（東京大学教育学部）

2014 年度は広島高等師範学校に焦点を当て、帝国日本の中等教員ネットワーク形成を検討することを確認した。さらに、山東省青島を対象に公立学校教員が日本の敗戦後に中華民国南京国民政府にどのように接収されたのか検討した。その成果は山本一生「中華民国期山東省青島における公立学校教員―「連続服務教員」に着目して―」『史学雑誌』（第 123 編第 11 号、2014 年）として発表した。

研究データの作成に関しては、収集した『広島高等師範学校一覧』の卒業生名簿（1906 年から 37 年）をデータ化した。この作業により、帝国日本の「外地」に転出した卒業生の具体的な足跡を、学部ごとや地域ごとに追うことが出来た。その結果、歴史地理学部と博物学部が「外地」への転出率が高く、人数としては朝鮮が最多であったことが判明した。

2015 年度は以下の研究活動を行った。

2015 年度第一回研究会

2015 年 5 月 3 日（日）～5 月 4 日（月）

会場 富士旅館会議室

〒191-0031 東京都日野市高幡 159

プログラム

2015 年 5 月 3 日（日）

15:00～16:00 山本一生（東京大学大学院教育学研究科教育学研究員）

私立青島学院商業学校（1921-45）の生徒―その属性と進路の変化―

16:00～17:00 松岡昌和（日本学術振興会特別研究員）

日本軍政下シンガポールにおける日本人漫画家の招聘

17:30～19:00 シンポジウム

帝国日本の植民地教員：養成と転出を中心に

シンポジスト：松岡昌和（日本学術振興会特別研究員）、山下達也（明治大学）、角能（立教大学等非常勤講師）

指定討論者：山本一生（東京大学大学院教育学研究科教育学研究員）

2015 年 5 月 4 日（月）

10:00～11:00 山下達也（明治大学）

植民地朝鮮における師範学校での実践研究－広島高等師範学校の影響を中心に－

11:00～12:00 角能（立教大学等非常勤講師）

広島高等師範学校卒業生の量的分析

12:00～12:30 総合討論

2016 年度は以下の研究活動を行った。

2016 年度第一回研究会

2016 年 8 月 7 日（日）～9 日（火）

会場：

上田女子短期大学（8 月 8 日）

〒386-1214 長野県上田市下之郷乙 620

菅平高原ホテル白樺（8 月 9 日）

〒386-2204 長野県 上田市菅平高原 1223

プログラム

上田女子短期大学（8 月 8 日）

9:00-10:00 角能（東京大学人文社会系研究科特任研究員）

：広島高師の外地教員について計量分析

10:00-11:00 山下達也（明治大学文学部准教授）

：植民地朝鮮における広島高等師範学校卒業生の展開

11:00-12:30 総合討論

菅平高原ホテル白樺（8 月 9 日）

9:00-10:00 山本一生（上田女子短期大学専任講師）

：広島高等師範学校卒業生の「外地」転出動向

10:00-11:00 松岡昌和（秀明大学非常勤講師）

：幣原坦の『外地』論

11:00-12:00 総合討論

教育史学会第 60 回大会

コロキウム「『外地』の中等教員ネットワーク－広島高等師範学校を中心に－」

会場：横浜国立大学

10 月 2 日

①「広島高等師範学校卒業生の「外地」転出動向」（山本一生）

②「戦前期中等教員の需要と供給 —「内地」と「外地」との関係をどのように読み解くか—

一」(杉森知也：日本大学、紙面報告)

③「広島高等師範学校卒業生の外地教員への異動実態—内地から外地への移動の社会背景の考察—」(角能：東京大学)

④「「外地」中等教員ネットワークと広島高等師範学校—朝鮮における師範教育界の事例に着目して—」(山下達也：明治大学)

⑤「幣原坦の「外地論」」(松岡昌和：秀明大学・非)

⑥「広島高等師範と新教育運動」槻木瑞生(同朋大学名誉教授)

2016 年 12 月 19 日

2016 年度第二回研究会

参加者：槻木瑞生、山下達也、松岡昌和、角能、山本一生

明治大学駿河台キャンパス研究棟 4 階第 7 会議室 14：00-17：00

科研費報告書の発刊に向けての打ち合わせ

2017 年 1 月 23 日

2016 年度第三回研究会

参加者：槻木瑞生、山下達也、松岡昌和、角能、山本一生

東京大学教育学部基礎教育学コース会議室 15：00-17：00

科研費報告書原稿の読み合わせ

補助金総額 3,510 千円(直接経費：2,700 千円、間接経費：810 千円)

2014 年度：1,170 千円(直接経費：900 千円、間接経費：270 千円)

2015 年度：1,430 千円(直接経費：1,100 千円、間接経費：330 千円)

2016 年度：910 千円(直接経費：700 千円、間接経費：210 千円)

目次

はしがき	i
1. 「広島高師卒業生データベース」概要（山本一生）	1
2. 広島高等師範学校卒業生の「外地」転出動向（山本一生）	3
3. 「満洲国」における中等教員需給政策 —恒久的中等教員養成機関の設置と展開に注目して—（杉森知也）	20
4. 広島高等師範学校卒業生の外地教員への異動実態 —内地から外地への移動の社会背景の考察—（角能）	30
5. 「外地」中等教員ネットワークと広島高等師範学校 —朝鮮における師範教育界の事例に着目して—（山下達也）	40
6. 幣原坦の「外地論」（松岡昌和）	49
7. 広島高等師範と新教育運動（槻木瑞生）	57
8. おわりに	74